

Farmcrowdy

 ナイジェリア (アフリカ)

デジタル・プラットフォームにより小規模農家を農業サプライチェーンに接続



「アフリカの貧困を終わらせる」ことを使命として掲げる同社は、農村部で分断された小規模農家たちをデジタル・プラットフォームでつなげることで、市場、金融、保険、データなどへのアクセスを提供し、農家が能動的に農業を営むことができる環境を作り出している。



背景にある社会課題

- ナイジェリアの農村部では、資本と農業リソースへのアクセスの欠如、市場へのアクセスの欠如、生産高の37%にも及ぶ収穫後ロスなどが課題となっている。

ビジネスモデルと製品の特徴

- 農業サプライチェーンに関わるアクターをデジタル・プラットフォームでつなげている。
- 提供しているサービスは金融、保険、集積及び市場へのアクセス、データ分析、直販ネットワークなど多岐にわたる。

SDGビジネスへのアプローチ

- これまで農業サプライチェーンに十分に組み込まれていなかった（あるいはその中での立場が弱かった）小規模農家を、情報とネットワークの提供を通じて支援している。例えば金融面は、融資対象を農業リソース（種苗や資機材など）の購入資金とし、農業分野に特化しているからこそできる根拠データと収益計画の評価を元に低い利率での融資を実現するなど、単に情報の仲介だけではなく付加価値を創出している。
- サプライヤーの側にとっても、これまで顔の見えなかった農家の情報が見えるようになり、流通全体の効率性を上げている。

SDGsへのインパクト

- およそ425,000の小規模農家が同社のネットワークを通じて農業情報にアクセス。
- 過去3年間に、25,000の農家に、合わせて1500万ドル（およそ16.4億円）の融資を実現。
- 過去3年間に、17,000エーカーの農地を作り出した。

成功のポイント

- ① 現地で普及しているスマートフォンを主体としたデジタル・プラットフォームの構築。
- ② 単なる情報アクセスの提供にとどまらず、融資の評価、農家向けの保険商品の共同開発、中間業者を排除した直販モデルの開発など、常に新サービスを改発し、拡充する姿勢。

